

「自ら学び高め合う児童の育成」

～ 国語科における「読むこと」の活動を通して～

I 研究の内容

1 研究仮説

国語科「読むこと」の領域において、読む力を高める工夫・日常活動における工夫をすることにより、自ら学び、高め合う子どもの育成を図ることができるであろう。

2 研究の内容と具体的方法

(1) 研究の内容

- ・児童の実態把握
- ・理論研究
- ・授業研究
- ・日常活動・環境の改善
- ・学年における「読むこと」の年間計画作成

(2) 研究の具体的方法

- ・全体研究会の他に部会研究会を設け、授業実践部と環境整備部に分かれ、討議や企画を行い、研究を推進していく。
- ・授業研究や授業公開の機会を設け(一人一実践)情報交換を行う。
 - ア音読の活用
 - イ語句や表現に着目させる指導の工夫
 - ウ叙述を基にして、自分の考えを表現するための学習活動の工夫
 - エ話し合い活動の意図的設定と、話し合いのさせ方の工夫
 - オ評価の工夫
- ・読書の推進、音読発表会、音読カードの作成、学びタイム、国語辞典の活用など日常的な実践を行う。

3 具体的実践

(1) 授業研究

ア 4年国語【ウナギのなぞをおって】 武井 茂教諭
指導・助言 峡東教育事務所 主幹・指導主事 萩原 徹先生

(2) 授業実践

ア 6年国語【海の命】 阿部伸之介教諭
イ 5年国語【千年の釘にいとむ】 倉田 和美教諭

ウ 3年国語【三年とうげ】
エ 2年国語【おにごっこ】
オ 1年国語【ずうっとずっと大すきだよ】

小川真知子教諭
清水 ゆう教諭
山本ふみ子教諭

- (3) 言語環境を充実させるための校内掲示
- (4) 音読の取り組み（音読カード・音読発表会）
- (5) 「読むこと」実態調査
- (6) 読書活動の推進（朝読書の充実・教師によるお薦めの本など）

II 成果と課題

1 成果

- ・読む力を高めることにより、他教科においても読解力が向上するなど有意義なテーマであった。
- ・実態調査から授業実践，理論研究，環境整備と研究内容がそれぞれに関わりを持って取り組めた。
- ・一人一実践はお互いに学ぶことができた。授業を参観することが，自分の実践の「読む力」を伸ばすための指導の工夫や改善に繋がった。
- ・授業研究では，挿絵や写真，図を文章と比較しながら読んだり，主体的な読みや交流活動によって，子どもたちの考えや思いを深めることができた。
- ・各学年の音読発表会はすばらしかった。内容を読み取り，自分なりに工夫し表現していた。積み重ねていくとよいと思う。
- ・実態調査により，児童の実態が把握でき，実践に生かされた。日常的な取り組みにより，授業だけでなく集会等でも子どもの変容を確認することができた。

2 課題

- ・誰もが授業について年間を通して学び合うやり方として，部会を低・高に分け取り組んでいったらどうか。
- ・子どもたちの表現力を培っていく必要を感じた。色々な場面で，自分の言葉で考えを述べたり，書いたりする力をつけていきたい。
- ・言語環境の整備として，校内掲示を充実していく。
- ・一人一実践の時期や出された意見を共有する方法を検討する必要がある。

III 成果物

- ・授業研究・授業実践の授業案（ワークシート等も含む）
- ・音読・暗唱（低・高）など校内掲示物
- ・音読カード

（研究主任 山本 ふみ子）